

久しぶりにコロナ感染の患者を診た。

1年程前に、家族の内3人がほぼ同時に感染して、その時は接触をなるべく避けるために、鍼灸治療はせず、専ら漢方薬で対処していた。3人とも胸下部の邪熱（専門的には胸脇苦満と言う）が強かった。小柴胡湯が効く病態である。固まって動き難い感じだったので、最初は多目に飲ませた。ノド痛には桔梗湯を併用した。2・3日で落ち着き、徐々に回復した。当時は10日間の療養期間が設けられていたため、回復していてもその間、隔離に近い状態で世話をしなければならず、その方がたいへんだった。

1人は病院で薬が出されたが、飲まなかった。解熱薬等、対症療法薬だった。後遺症が多いのは、この様な対症療法薬で自己治癒力を抑制するような処置をするからではないかと思う。

さて、今回は初めてコロナの鍼灸治療をすることができた。電話で感染陽性と聞いたので、N95以上の高性能のマスクを着け、前後に患者がいない時間に来てもらった。治療後はよく換気し、患者が接触するシーツ等は交換した。

来院したのは金曜であった。朝は37℃台。脇痛、少し腰痛がある。診ると、やはり胸脇苦満があった。火曜にノドに違和感。水曜にはだるくなり、食欲が無く、お粥を食べたが吐いたと言う。木曜に38.5℃くらいとなった。

胸脇部の邪熱を、局所から、また経脈を通して手首辺りから、そして背部から瀉法鍼で取った。その他、状態に合わせて鍼をして、〈気〉の巡りを良くし、免疫力を高めた。小柴胡湯を勧めた。

翌日土曜も来院。頭がモヤモヤし、胃部に痞えた感じがあると言う。右背上部は触っただけで痛い。病院で処方された対症療法薬と小柴胡湯を飲んでいる。脈を診ると、虚緩、つまり弱

くて緩い感じであり、コロナと戦えていない。対症療法薬のせいではないかと思う。

右背上部の痛みは右胸脇部の邪熱が及んでいるためである。頭のモヤモヤは、全身的に〈気〉の巡りは悪くなっているために、頭部の〈気〉の巡りも悪くなっているからだ。

前回と同様な施術を行い、脈はほぼ正常となった。再び、小柴胡湯を勧めた。患者は小柴胡湯を飲み、月曜になって、だいぶ良くなったと連絡を来た。

実はこの患者が来院した金曜より6日前の土曜に、その奥さんが頭痛とからだ中の筋肉痛を訴え、来院していた。朝は37.7℃で、鼻がつまり、目が乾き、咳はない。肩や背上部に凝りがあり、胸脇苦満もあった。肩凝りを含めた筋肉痛に対して葛根湯。胸脇苦満に対しては小柴胡湯。先表後裏（先ずからだの上部・表面を処理し、後に奥を処理する）の原則によって、先ず葛根湯を飲み、肩や背上部に凝りが減ってから、小柴胡湯を飲むよう勧めた。

葛根湯を飲んだだけの状況で、翌日日曜に腰痛が辛いと来院。前日夜に発汗し、朝は36.6℃。その他の筋肉痛はない。口中まずく感じ、食欲は無い。頭重し、首肩も張っている感じがすると言う。舌には激しい歯痕があり、赤さが強い。身体内側の熱が強いからだ。小柴胡湯を勧めた。

また来院するだろうと思ったが、なかなか電話がなく、どうしたのかと思っていたところ、金曜に電話が来たが、奥さんは火曜には回復していて、ご主人の予約電話だったわけだ。

2人の病態は筋肉痛があるところが似ていて、一般に聞いているコロナ症状と違っていた。状況から考えると、奥さんもコロナ感染だったのだろう。(2023年8月処暑)